

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	経営管理課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標				主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	安定した事業運営を継続して実施するため、財政収支計画を適切に管理・運用していきます。	行財政2-1-①	財政収支計画の適切な管理・運用	実施	実施	財政収支計画の適切な管理・運用	令和6年度に策定した財政収支計画については、6年度決算が確定した時点など、適切なタイミングで見直しを行います。	○	令和6年度の決算状況および令和8年度予算の反映に加え、人件費の増加や借入利率の上昇に伴う支払利息の増加を見込み、財政収支計画を適切に見直しました。	財政収支計画の進捗管理を詳細に行い、次期料金改定の時期や規模などの検討を行います。
2	新・マスタープランの総括及び情報公開を行います		毎年度評価の実施と全計画期間の総括	実施	実施	年度評価の実施と全計画期間の総括	新・マスタープランに位置付けられた事業について年度の業績評価を実施し、併せて、全計画期間の総括を行います。	○	令和6年度の業績評価及び全計画期間の総括を実施し、結果をホームページで公表しました。	進捗管理として年度評価を継続的に実施し、PDCAサイクルを確実に回せるよう進めていきます。
			事業、取り組み状況の分かりやすい公表	実施	実施	事業、取り組み状況の分かりやすい公表	取組状況の結果についてホームページ等で公表します。			
3	健全な水道を後世に引き継ぐため、経営基盤強化に向けた取り組みを一層推進します。	行財政2-1-①	業務改善の実施	実施	実施	業務改善の実施	業務改善委員会での議論を踏まえて業務改善策を策定し、業務の一層の効率化を図ります。	○	業務改善委員会を開催し、改善策を策定のうえ、管理者へ上申しました。また、令和8年度からの実施に向けて準備を進めました。	業務改善策を確実に実施できるよう進捗管理に努めるとともに、新たな改善策についても検討していきます。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	総務課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	持続的な事業運営のため、継承すべき専門知識と実務経験を併せ持つ職員育成に取り組めます。	行財1-4-①	一人当たりの平均内部研修実施時間数 (時間/人)	15.4時間	17.6時間	水道局職員研修	水道局職員研修基本計画に基づき、階層別や専門別研修などを行います。 職場単位でのOff-JTの充実、活性化を行います。	○	職員研修基本計画に基づく研修を予定通り実施するとともに、各所属において積極的に職場内Off-JTを実施したことにより、目標を達成しました。	今後も次世代を担う人材の育成と水道技術の継承を図るため、職員研修基本計画に基づき計画的に研修を進めます。また、外部講師を招聘した研修や広報活動イベントへの参加型研修、職場内Off-JTを中心として効果的な人材育成を行っていきます。
			職員研修受講者アンケートでの「理解度」※「十分理解できた」および「ある程度理解できた」の合計	80%	95.2%	水道局職員研修	水道局職員研修基本計画に基づき、階層別や専門別研修などを行います。 職員が意欲的に専門性を身につけ成長できるよう、効果的な研修を実施し、理解度の向上を図ります。		職員研修計画に基づく、階層別研修および専門別研修における受講者アンケートの結果、46.9%が「十分理解できた」、48.3%が「ある程度理解できた」と回答(合計95.2%)し、目標を達成しました。	今後も現行の研修の取組を継続しつつ、より効果的な研修のあり方について検討を進めるとともに、職員の理解度および資質の向上を図ります。
2	効率的な施設保全を推進していくため、省エネ設備導入による脱炭素化の推進、ライフサイクルコストの削減を図ります。	行財2-2-②	LED照明器具への取り替え数	125灯	125灯	省エネ設備の導入	水道局庁舎の蛍光灯照明器具を計画的にLED照明器具へ取り替えます。R7年度は5カ年計画の最終年度として本庁舎及び別棟の照明器具を取り替えます。	○	計画通りに125灯の照明器具をLEDに取り換えることができ、目標を達成しました。また取り換えを進めた結果、当該箇所の消費電力合計を取り換え前の6,413Wから3,015Wへと半分以上に削減することができました。	引き続き省エネ設備導入による脱炭素化の推進のため、本局別館2階の蛍光灯照明器具をLED照明器具に取り替えます。また、東庁舎における取替計画を策定します。
3	職員の健康を保持するため、安全衛生に配慮した施策を実施します。		定期健診精密検査受診率(%)	90%	93.3%	精密検査受診の促進	定期健診における要精密検査対象者に対し、精密検査受診を促します。	○	所属長に対象者への勧奨を依頼するなど、受診勧奨の工夫を重ね、目標を達成することができました。(対象者104名中97名受診)	引き続きこれまでの取り組みを継続し、職員の健康保持に取り組んでいきます。
			職場巡視の実施回数	4回	4回	安全・衛生環境向上のための職場巡視	安全衛生委員による各職場の安全・衛生環境向上のための職場巡視を行います。		目標通り実施しました。	職員が安心して働く環境を整備するために、職場の安全衛生に関する施策を進めていきます。

組織目標管理シート

年度	令和7年度		(参考) 関連する総合計画 における政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間		作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	経理課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標				主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	職員の意識と能力の向上を図ることにより、適正な会計事務を推進するとともに、支払の迅速化と遅延防止に努めます。	行財1-1-①	研修会の回数(回) ・初任者向け 1回 (階層別研修) ・実務者向け 1回 (会計実務研修)	2回	2回	適正な会計事務の推進	適正な会計事務が行われるよう研修を実施し、円滑な経理処理と支払遅延防止に対する職員の意識と能力の向上を図ります。	○	会計事務を担当する職員を対象とした研修会を実施するなど、職員の意識向上に努めました。併せて、支払遅延等の不適切な会計処理の発生を防止し、適正に処理することができました。	引き続き、局全体の支払い遅延等の不適切な会計処理が発生しないよう、職員の意識と能力の向上を目的とし、研修会を実施します。
2	契約事務の電子化を推進します。	行財1-1-①	所管への電子契約の導入	令和7年10月導入	令和7年10月導入	電子契約の運用拡大	令和7年1月より水道局においても、経理課契約案件に対し電子契約を導入しました。今年度は、所管契約(見積合わせ)まで拡大し、迅速な契約・コスト削減を図り、契約事務の効率化を進めます。	○	水道局全所属において、電子契約を活用した各種契約を令和7年10月より実施いたしました。	導入後も、大きなトラブルもなく、円滑に契約事務が行われていることから、継続実施します。
3	水道局における適正な入札・契約事務を継続的に実施します。	行財1-1-①	点検・研修会の回数(回) ・点検 2回 (前期・後期) ・研修 2回 (専門別・工事担当者向け)	4回	4回	適正な入札・契約事務の継続	今年度より地方公営企業法施行令の改正に伴い事務専決を改正し、所管における契約権限が拡大します。引き続き、局内の契約事務が適正に行われるよう所管契約事務の点検を行うとともに、市契約担当部署とも情報共有を図り、適正な運用が行われるよう局内研修会を開催します。	○	所管に対し、適正な契約事務の実施状況の確認のため、上・下半期に各1回点検を実施いたしました。また、所管契約担当職員向けに見積合わせ、契約手続きに関する研修を行い、不適切な契約事務の発生はありませんでした。	局における契約事務のリスクを回避し、適正な運用が行われるよう引き続き、所管契約事務点検及び職員のスキルの向上を目的とした契約事務研修を実施します。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	営業課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)			
1	お客さまサービスの向上と業務の効率化を実現するため、デジタル技術の導入に積極的に取り組めます。	行財1-3-②	スマートメーターの実証実験における「見守りサービス」のモデル実施	実施	実施	スマートメーターの実用化に向けた検討	○	「見守りサービス」のモデルユーザーに対し安否確認や異常計測時のメール配信サービスおよびアプリを提供し、設定どおりに作動していることを確認しました。	機能面とニーズの観点から実用化の可否について検証を継続します。
			RPAの試行運用における業務削減時間数	600時間	608時間	RPAの導入		目標に掲げた業務の削減時間数は達成しましたが、当課の対象業務については、概ね自動化を完了しました。	引き続き、局内業務の自動化について横展開を継続します。
2	インターネットバンキング等の電子的決済サービスなど、国が進める公金収納等事務のデジタル化に取り組めます。	行財1-3-②	口座振替データの伝送化を開始する金融機関数(金融機関)	4行	4行	口座振替データの伝送化	○	目標どおり4金融機関グループの伝送化を達成しました。	令和8年度は伝送化3カ年計画の最終年度にあたることから、残り9金融機関の伝送化を目指します。
3	寒波発生時の水道管の破裂による大規模断水を防止するため、「空き家」の破裂対策を強化します。	政策15-2-②	啓発文書の送付対象拡大	拡大	拡大	長期不在家屋における水道管破裂防止対策	○	「空き家」の所有者等に対する止水依頼等の文書送付や架電による対象数を強化し、幅広く周知を行いました。	これまでの広報活動の積み重ねにより破裂防止に対するお客さまの意識は高まっていることから、継続して実施します。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	技術管理室			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	事故や災害に強い水道施設の構築に向け、工事の品質確保の一環として、総合評価方式を適正に実施します。	政策15-2-②	試行割合	65%	53.1%	総合評価方式の実施	3,000万円以上の一般競争入札案件に対し、総合評価方式を実施することにより、工事の品質確保を図ります。	×	総合評価方式の実施により工事品質の確保に努めましたが、震災関連工事等の影響により、試行割合は前年度(49.1%)を上回りながらも目標値を下回る結果となりました。	工事成績評定平均点は当年度80.7点に対し、総合評価方式の平均点は82.5点と高水準を達成していることから、引き続き総合評価方式の適切な実施に努めます。また、試行割合の算出方法については、次年度より震災関連工事等の総合評価方式対象外工事を除いた件数で算出します。
2	工事の品質確保の一環として、工事点検等の実施を通じ、適切な指導・育成を行います。	政策15-2-②	工事点検実施率	30%	33.1%	工事点検、中間技術検査の実施	当該年度工事(400万円以上)に対し、工事点検等実施することにより、工事の品質確保を図ります。	○	対象工事件数157件に対し、工事点検を52件実施し、実施率は33.1%となりました。目標を達成しています。	引き続き工事点検を実施し、適切な指導により、工事の品質確保に努めます。
3	技術系職員向け研修を実施し、職員の技術能力向上を目指します。	行財1-4-①	内部研修回数	2回	2回	積算照査研修、工事成績採点研修の実施	設計者を対象に設計指針を基に違算事例を交え研修を実施し、設計者の理解を深めることで積算照査の精度の向上を図ります。また、成績採点のばらつきをなくすための研修を実施し、適正な工事評定が行えるよう取り組みます。	○	設計担当者、工事成績採点者を対象とし、「積算照査」及び「工事成績採点」を専門別研修にて実施しました。	研修内容のブラッシュアップを図る等受講者が研修内容を十分に理解し、業務に生かせるように研修を実施します。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	料金課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有し、円滑な連携体制を築きます。		研修会開催回数	4回	4回	受託者との研修会の開催	業務の受託者と水道事業全般に係る研修会を実施し、円滑な連携体制の構築に取り組みます。	○	委託業務遂行に関連のある題材での研修を4回実施し、目標を達成しました。	今後も受託者と課題を共有しながら円滑な連携体制を強化し、お客さまサービスの向上に努めます。
2	災害時の応急給水活動を迅速に行えるようにします。		応急給水訓練及びマニュアルに関する研修の実施回数	応急給水訓練 3回 マニュアル研修 1回	応急給水訓練 3回 マニュアル研修 1回	給水訓練及びマニュアルに関する研修の実施	所属職員全てが拠点給水所設置可能者となるよう、より実践的な応急給水訓練を実施します。 また、災害協定者等との合同応急給水訓練も実施し、迅速な応急給水活動を行えるよう取り組みます。	○	計画どおりに応急給水訓練を実施し、実施回数および、拠点給水所設置可能者の割合を確保し、目標を達成しました。	このような訓練は繰り返し実施することが重要なことから、基本的な内容は踏襲しながら今後も継続して実施します。
			拠点給水所設置可能者の割合	100%	100%					
3	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	所属内研修アンケートの平均理解度	90%	96.2%	職員所属内研修の実施	営業所職員として必要とされるスキルをテーマとした所属内研修を実施し、職員の意識や能力の向上に取り組みます。	○	研修後の理解度測定での平均理解度は96.2%となり、目標を達成しました。	今後も職員の意識改革と業務受託者の意識醸成を図るため、局内外を問わない積極的な研修参加と計画を実施していきます。

組織目標管理シート

年度	令和7年度		(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局総務部	組織名 (準部・課・機関名)	秋葉営業所		評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標				主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	お客さまと直接関わる業務の受託者と課題を共有し、円滑な連携体制を築きます。		研修会開催回数(回)	4回	4回	受託者との研修会の開催	業務の受託者と水道事業全般に係る研修会を実施し、円滑な連携体制の構築に取り組みます。	○	委託業務遂行に関連のある題材での研修を4回実施し、目標を達成しました。	今後も受託者と課題を共有しながら円滑な連携体制を強化し、お客さまサービスの向上に努めます。
2	災害時の応急給水活動を迅速に行えるようにします。		応急給水訓練及びマニュアルに関する研修の実施回数(回)	応急給水訓練3回 マニュアル研修1回	応急給水訓練3回 マニュアル研修1回	給水訓練及びマニュアルに関する研修の実施	所属職員全てが拠点給水所設置可能者となるよう、より実践的な応急給水訓練を実施します。 また、災害協定者等との合同応急給水訓練も実施し、迅速な応急給水活動を行えるよう取り組みます。	○	計画どおりに応急給水訓練を実施し、実施回数および、拠点給水所設置可能者の割合を確保し、目標を達成しました。	このような訓練は繰り返し実施することが重要なことから、基本的な内容は踏襲しながら今後も継続して実施します。
			拠点給水所設置可能者の割合(%)	100%	100%					
3	高度化・複雑多様化する行政課題を市民の視点で考え、解決することができる職員を育成します。また、急激に変化する経済社会状況や将来起こりうる課題に対応できる職員育成に取り組みます。	行財1-4-①	所属内研修アンケートの平均理解度(%)	90%	96.2%	職員所属内研修の実施	営業所職員として必要とされるスキルをテーマとした所属内研修を実施し、職員の意識や能力の向上に取り組みます。	○	研修後の理解度測定での平均理解度は96.2%となり、目標を達成しました。	今後も職員の意識改革と業務受託者の意識醸成を図るため、局内外を問わない積極的な研修参加と計画を実施していきます。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	計画整備課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	施設の更新・耐震化等を効率的・効果的に進めるため、中長期的な計画の策定を行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	施設整備長期構想2020に基づく整備工程表の更新	更新完了	更新完了	施設整備長期構想2020に基づく整備工程表の更新	マスタープラン2034における投資計画及びアセットマネジメントを踏まえ、施設整備長期構想2020にて作成した整備工程表の見直しを行います。	○	アセットマネジメントを踏まえ、関係部署と調整を図りながら統廃合時期や整備内容の見直しを行い、整備工程表を更新しました。	更新した整備工程表に基づき、施設の更新・耐震化等を効率的・効果的に進めていきます。
2	老朽化した管路施設の計画的更新および耐震化を進めます。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-②	基幹管路の耐震管率	54.3%	55.2%	基幹管路の更新事業の進捗管理	マスタープラン2034に基づき、基幹管路の更新・耐震化に重点的に取り組みます。また工事担当課と連携して確実な進捗管理を行います。	○	適宜、進捗管理を行うことで計画通りに進め、目標値を達成しました。	引き続き、工事担当課と連携しながら、基幹管路更新事業を着実に進めていきます。
3	老朽化した設備の計画的更新および耐震化を進めるとともに、施設規模の適正化を図ります。	政策15-2-① 行財2-2-②	事業進捗率 (実績累計出来高／計画事業費)	0.17%	0.07%	巻浄水場施設整備事業(R7～R10)	事業初年度となる令和7年度は、送水バイパス管布設、受変電設備、自家発電設備、送水ポンプ更新等の工事発注を行います。	×	予定工事は全て発注しましたが、工程調整により、目標とする進捗率は達成できませんでした。なお、計画事業費と出来高の差はわずかであり、全体工程に影響はありません。	令和8年度は浄水場構内での本格的な工事がスタートします。浄水場の運用に影響がないよう、安全・確実な施工管理と工程管理を行います。
		政策15-2-① 行財2-2-②	事業進捗率 (実績累計出来高／計画事業費)	0.11%	0.02%	竹尾配水場施設整備事業(R7～R10)	事業初年度となる令和7年度は、構内水管更新や配水池長寿命化および受変電設備、自家発電設備、配水ポンプ更新等の工事発注を行います。			
4	事故・災害などの非常時において、迅速かつ的確に応急給水が行える体制を確立します。		応急給水体制の評価・見直し	基本方針策定	策定完了	応急給水体制および機能等の見直しによる実効性の強化	マスタープラン2034に基づき、事故・災害などの非常時において、より迅速かつ的確に応急給水を行える体制を確立するとともに、設備の整備を実施し、応急給水全般の機能強化を図ります。	○	応急給水活動における問題を整理し、基本方針を策定するとともに、基本方針に基づく検討項目を整理しました。	策定した基本方針に基づき、局内及び市関係部署と協議・調整し、より迅速かつ的確に応急給水を行える体制を確立します。
5	事業マネジメント力や技術力を持った人材を育成します。	行財1-4-①	課内研修の理解度	90%	96.8%	課内研修の実施	以下の4講座を実施し、研修後のアンケートにより理解度を測定します(目標指標は平均値) ①水道施設計画 ②管路事業計画 ③施設整備事業 ④危機事象対応	○	技術研修4講座について、研修後のアンケート調査により、理解度を測定し、目標指標を達成したことを確認しました。	引き続き、課内業務を通して、積極的に技術研修を実施し、事業マネジメント力や技術力を持った人材を育成します。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	管路課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	老朽化に伴う施設の更新に併せて、水需要の減少を踏まえた施設能力のダウンサイジングを図るとともに、更新等費用の確保に努め、効率的な施設による安定給水の確保を図ります。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-②	老朽基幹管路更新延長(m/年)	2,550m	2,638.5m	基幹管路更新事業	基幹管路については、新潟市水道事業経営計画(マスタープラン2034)前期実施計画に基づき、着実な更新を進めます。	○	対象とした工事の進捗管理に努め、計画どおりに竣工したことで目標を達成しました。	マスタープラン2034に沿って、限られた財源の中でも効率的かつ確実に老朽基幹管路の更新と耐震化を進めます。
			更新周期を越えた配水管の更新延長(m/年)	2,740m	4,932m	老朽配水支管更新事業	漏水事故の未然防止及び安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れて設定した更新周期を越え老朽化した配水支管を計画的に更新します。		R7目標値は当初予算計上工事の更新延長でしたが、これにR6年度の補正予算および債務負担行為による工事が竣工し加算されたことで、目標値を大きく上回る更新延長となりました。	引き続き、アセットマネジメント手法を取り入れて策定した更新周期を基本に、老朽化した配水管を計画的に更新します。
2	確実な施工管理を行い工事目的物の品質を確保することで強靱な施設を構築します。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-②	抜き打ち検査の件数	17件	29件	監督員による継手チェックの実施(抜き打ち検査)	監督員による抜き打ち検査を行うことで、受注者による施工不備の未然防止を図るとともに、監督員自身の知識や経験の習得につながる機会とします。	○	R7目標値は監督員1人につき1工事の実施としていましたが、検査可能な工事に対して実施した結果、検査件数が大きく上回りました。	当検査での現場施工への指摘が改善につながっており、受注者による施工不備の未然防止にも有効な取り組みとなっています。今後も検査項目の見直しを図りながら、引き続き実施していきます。
3	監督員の資質向上を図り、工事契約の適正な履行と円滑な施工の確保を実現します。	行財1-4-①	監督員研修の理解度	90%	94.3%	監督員研修の実施	監督員業務に必要な知識、経験を身につけるため、研修を実施します。 ・監督員研修開催 ・研修後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	○	予定していた研修を実施し、良好な理解度を確認しました。	当課は技術系の若手職員が多く、当該研修は業務に直結し大変有意義であることから、今後も研修内容の見直しを行いながら、継続的に実施していきます。
4	職員の職務能力を向上させ、効率的な業務執行と、安全、確実な施工につなげます。	行財1-4-①	課内研修の理解度	90%	93.2%	課内研修の実施	課内研修の実施により、技術・知識の向上を図ります。 ・①事務研修 ②管路設計計画 ③管路の設計実務・施工管理 ・研修後のアンケート調査により理解度を測定(平均値)	○	予定していた研修を実施しました。研修後のアンケート調査において理解度が低くなった研修項目については、補足説明を行い、理解度の向上を図りました。	課内研修は、講師・受講者双方にとって学びの機会となることから「過度な負担とまらない範囲で」という前提を維持しつつ、継続して実施していきます。

組織目標管理シート

年度	令和7年度		(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	給水装置課		評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要		
1	給水装置工事事業者の更なる利便性の向上に向けてデジタル技術の拡充に取り組みます。	行財1-3-①	電子申請の申請件数	420件	625件	既存デジタルツールの利用促進	電子化の拡充を目指します。給水申請の電子申請の申請件数を集計し評価します。事務事業をより効率的かつ効果的にすすめるため新たにデジタルシステムを構築します。	○	申請手続き電子化の更なる拡充に向け現行の事前審査活用を業者へ周知するとともに、押印廃止による電子化の推進を図ります。
			新デジタルシステム構築の完成度	100%	100%	窓口相談予約受付システムの構築			テスト運用を進め改良を行った後、本格運用を開始します。
2	・安全な水道水をお客さまに供給し、水質事故を防止します。		指導実施回数	2回	2回	指定給水装置工事事業者の技術・知識の向上	指定給水装置工事事業者の講習会や更新手続の際の指導及び抜き打ち検査などにより指導を強化し、給水事故を防止します。	○	引き続き、指定給水装置工事事業者の講習会、更新手続の際の注意喚起により技術力向上を図るとともに、抜き打ち検査の計画的な実施により、給水装置に起因する水質事故の防止に努めます。
			抜き打ち検査件数	80件	80件	給水装置工事の審査及び検査の徹底			計画に沿った抜き打ち検査を実施し、業者指導に努めました。その結果、給水装置に起因する水質事故の発生もありませんでした。
3	技術・知識を有する人材の確保と育成します。	行財1-4-①	研修の理解度	90%	94.9%	監督員研修	水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力の向上を実現します。研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)必要に応じて振り返り研修を実施します。	○	研修後のアンケートにより理解度を測定した結果、全ての研修で目標値を超えることができました。
				90%	99%	給水装置研修			
				90%	95.67%	管路図研修			

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	浄水課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	施設の重大事故を防止し、施設の長寿命化を図るため、電気・機械設備及び土木施設の維持管理を着実にを行います。	政策15-2-① 行財2-2-②	設備点検実施率	100%	100%	電気、機械設備及び土木施設の計画的な点検の実施	計画的な施設・設備機器の点検(法定点検及び自主点検)を行い、重大事故の防止と水道水の安定供給に努めます。 ・設備点検実施率＝設備点検実施数／設備点検の計画回数(法定点検＋自主点検)	○	現状の電気回路の把握や仕組みを改めて職員へ周知徹底し、加えて必要に応じ研修を実施するなどし、事故リスクの低減を図りました。 また、課内職員による検査の実施により、事故防止に係るダブルチェックを行い、対策の実効性を確保しました。	引き続き、次年度以降においても、施設の維持管理や対策を着実に実施し、施設の重大事故ゼロにつなげていきます。
			設備不良を原因とした浄水場機能停止事故の件数	0件	0件	老朽化した設備の修繕や更新工事の実施	施設・設備機器の修繕や更新を適切に行うことで長寿命化を図り、重大事故を防止します。 ・設備不良を原因として送配水ができなくなった事故件数(停電等の外部要因による事故を除く)			
2	浄水技術を着実に継承するため、内部研修等を実施し、次世代の技術者育成を進めています。	行財1-4-①	研修・訓練における理解度	90%	96.3%	職員研修・訓練の実施	職員の事故・災害時対応力と、専門技術力の向上のため、各浄水場の特性に合わせた研修や訓練を実施します。 ・危機管理、施設維持管理、浄水処理、監督員研修等 ・研修後のアンケート調査により、理解度を確認(平均値)	○	危機管理や施設の維持管理等に係る研修・訓練を計30回実施し、現場対応能力の向上等を図りました。 研修の理解度は、目標値を上回りました。	引き続き、現場対応能力と専門技術力の向上に向け、実践的な研修実施に努めます。
			スキルマップ習得状況のプロセス確認(段階)	3	3	「浄水技術者育成計画」に基づく人材の育成	「浄水技術者育成計画」に基づき浄水技術者を育成します。 ・育成責任者と育成者で面談し、スキルマップを使用して習得状況を確認(目標設定、中間、最終の3段階)			
3	浄水発生土の有効利用を継続し、廃棄物の減量化を推進します。	政策16-2-①	浄水発生土の有効利用率	100%	100%	浄水発生土の有効利用	浄水処理工程で発生する汚泥を建設資材等に全量有効利用することで、環境に配慮します。 ・有効利用率＝有効利用土量／浄水発生土量(天日乾燥後の搬出可能汚泥のうち有効利用した割合)	○	天日乾燥後、搬出可能となった汚泥は、全量、建設改良土やセメント原材料及び園芸用土などの利用目的で販売・譲渡(放射性物質不検出)を行い、有効利用しました。	今後も浄水発生土の全量有効利用を継続します。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	水質管理課			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針	
		総合計画(実施計画)上の位置づけ	取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)				概要
1	安全で良質な水道水を継続的に供給するために水安全計画の充実・適切な運用を行います。		水安全計画の評価実施率	100%	100%	水安全計画の充実・適切な運用	『安全な水の安定給水』に資するよう、水安全計画にそった水質管理を確実に実施するとともに、水安全計画を構成する各要素の技術的妥当性について確認し、必要に応じて見直しを行います。	○	年度末に水安全計画の妥当性評価を行い、水安全計画に基づいた水質管理が実施されていること、水安全計画の構成要素が適正に機能していることを確認しました。	過去3か年分のレビューを実施します。 引き続き、水安全計画に基づいた水質管理を実施し、『安全な水の安定給水』に努めます。
2	水質検査計画に基づき、水質検査を計画的・合理的に実施します。		水質検査計画の実施率	100%	100%	水質管理体制の充実	水源から蛇口までの水質検査の方針と具体的な計画を定めた水質検査計画を策定し、本計画に基づいた水質検査を実施します。	○	事業年度の開始前に水質検査計画を策定し、公表しました。水質検査は、計画のとおりに進捗し、目標値を達成しました。	次年度の検査計画の検討を進めるとともに、着実に水質検査を実施していきます。
3	より安全でおいしい水道水を提供するため、新潟市独自の目標値を定め管理を徹底します。		新潟市独自の水質管理目標達成率	90%	96.2%	新潟市独自の目標管理による水質管理	穀倉地帯の最下流を水源としていることを踏まえ、安全性の基準として農薬類と総トリハロメタン、おいしさの基準として残留塩素濃度と臭気強度について、新潟市独自の管理目標値を設定し、重点的な管理を行います。	○	活性炭注入指針に基づいた管理により、目標を達成しました。	引き続き、活性炭注入指針に基づいた管理を着実にを行い、より安全でおいしい水道水の供給に努めます。
4	河川水質事故による水道水への被害を防止します。		水道水質に影響を及ぼした回数	0回	0回	水源水質の監視	河川水質事故による水道水への被害を防止するために、同一水源を利用する水道事業者や関係機関と連携し、河川水質に関する迅速な情報共有を図ります。	○	関係機関と連携した水質事故情報の受発信により、水質事故発生時の浄水処理への影響を未然に防止しました。	引き続き、関係機関と連携した水質事故の情報共有を確実に実施していきます。
5	職員の職務遂行能力の向上に繋がる研修等を実施します。	行財1-4-①	課内外研修回数	10回	21回	水質管理体制の充実	水質管理に係る人材育成として、OJTが効率よく行える環境を整備し、水質管理技術のレベルアップを目指します。 くわえて、調査研究を計画的に実施し、その成果を業務へ反映させます。	○	水道GLPマネジメントレビューにおいて、教育訓練の回数が目標に達していることを確認しました。	引き続き、積極的に教育訓練を実施し、職務遂行能力の向上を図ります。

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	中央工事事務所			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	総合計画(実施計画)上の位置づけ	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	配水管漏水事故の縮減のため、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長	137m	140.9m	配水支管改良	漏水の懸念される配水支管及び鉛給水管の計画的な更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止し、水道の安定供給を確保します。	○	老朽配水支管の更新を計画的に実施したことにより、目標値を達成することができました。	今後も配水支管等の更新を計画的に推進し、漏水事故の未然防止に務めます。
2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	政策15-2-①	鉛給水管更新件数	295件	297件	鉛給水管更新		○	鉛給水管の更新を計画的に実施し、鉛給水管の漏水時には、鉛管を極力残さない修理により、目標値を達成することができました。	今後も鉛給水管の更新を計画的に推進し、漏水事故時には鉛管を残さない修理に務めます。
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度	90%	93.1%	監督員研修	配水管事故の迅速かつ的確な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含む想定事故への対応等の実践訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。 ・課内研修後のアンケート調査により理解度を判定(平均値)	○	現場実務に直結した研修を実施し目標値を達成することができました。これにより職務遂行能力の向上を図ることができました。	今後も継続的に研修を実施し職員の職務遂行能力の向上を図ります。また、配水管事故の迅速な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含めた実践訓練を継続的に実施します。
				100%	100%	給水車運転操作研修				
				100%	100%	管路探知, 漏水探知研修				
			実施回数	1回	1回	配水管漏水事故対応訓練			青山浄水場と合同で、送水管漏水を想定した実践訓練を実施しました。	

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和7年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	秋葉工事事務所			評価日	令和8年3月31日

No.	組織目標	総合計画(実施計画)上の位置づけ	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水支管、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長	1,029.2m	852.6m	老朽配水支管更新 配水支管改良 重要施設向け配水管の耐震化	漏水事故を未然に防止するため、老朽配水支管等を計画的に更新します。	×	予定した工事は全て年度内に発注しましたが、現場状況に応じて配管計画を見直したこと、また、既存仕切弁の不具合により1工事が次年度へ繰り越したことから、目標を達成することが出来ませんでした。	計画的な配水支管の更新に努めます。
2	安全な水道水をお客さまに供給し、水質事故を防止します。		指導実施回数	1回	1回	指定給水装置工事事業者の技術力向上	指定給水装置工事事業者更新手続きでの指導や抜き打ち検査などにより指導を強化し、給水装置に起因する水質事故を防止します。	○	指定給水装置工事事業者の更新手続きに併せて、施工上の注意点についての指導を行いました。	指定給水装置工事事業者更新手続きでの指導を通じて、給水事故に起因する水質事故の防止に努めます。
			抜き打ち検査件数	60件	60件	給水装置工事検査の指導強化			年間で60件の抜き打ち検査を行いました。	抜き打ち検査に基づく指導を通じて、給水事故に起因する水質事故の防止に努めます。
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度	90%	94.6%	監督員研修	水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。 ・課内研修後のアンケート調査により理解度を判定(平均値)	○	各研修における受講者の理解度は目標指標を達成し、研修の効果を確認することができました。	各研修及び訓練を通じて、職員の職務遂行能力の向上に努めます。
				100%	100%	給水車運転操作研修				
				100%	100%	管路漏水探知技術研修				
			実施回数	1回	1回	配水管漏水事故対応訓練			訓練を通じて、各自の役割を確認しました。	

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	R7.4.1
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	北工事事務所			評価日	R8.3.31

No.	組織目標	総合計画(実施計画)上の位置づけ	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	配水管漏水事故の縮減のため、老朽配水支管、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にしています。	政策15-2-① 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長	565m	671.4m	老朽配水支管更新 配水支管改良 重要施設向け配水管の耐震化	老朽配水支管、漏水や濁水の懸念される配水支管及び鉛給水管の計画的な更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止し、水道の安定供給を確保します。	○	計画的に工事を発注し、確実な実施に努めたことにより、目標の更新延長を達成できました。	令和8年度も工事場所における地域特性を踏まえた計画的発注及び効率的な工事の実施に取り組みます。今後とも引き続き強靱な配水管網の構築に努めていきます。
2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にしています。	政策15-2-①	鉛給水管更新件数	130件	130件	鉛給水管更新		○	鉛給水管更新工事の実施にあたり、関係者との事前調整を確実に行ったことにより、目標を達成することができました。	今後もあらゆる工事において効率的且つ効果的な更新が行えるように発注します。
3	職員の職務遂行能力の向上のため、課内研修を行います。	行財1-4-①	研修の理解度	90%	100%	監督員研修	配水管事故の迅速かつ的確な復旧を行うため、緊急連絡体制の確認を含む想定事故への対応等の実践訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、水道事業を取り巻く様々な変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成を目指した研修を実施し、職員の職務遂行能力を向上させます。課内研修後のアンケート調査等により理解度を測定(平均値)	○	研修テーマの理解度は達成水準を満たし、研修の効果を確認できました。	令和8年度も監督員の資質向上を目標とした研修を予定し、あらゆる状況での危機事象を想定した対応訓練を実施していきます。監督員研修及び給水車運転操作研修等は引き続き研修内容を精査し、職員の要望も踏まえ業務に有効な研修を実施していきます。
				100%	100%	給水車運転操作研修				
				100%	100%	水理解析研修				
			実施回数	1回	1回	配水管漏水事故対応訓練			地震災害時の漏水事故を想定した対応訓練を行いました。	

組織目標管理シート

年度	令和7年度			(参考) 関連する総合計画に おける政策指標	一人当たり年間平均断水・濁水時間	作成日	令和7年4月1日
組織名(部)	水道局技術部	組織名 (準部・課・機関名)	西蒲工事事務所			評価日	令和8年3月31日

No.	組織目標	総合計画(実施計画)上の位置づけ	指標			主な取組(事業)		評価	目標達成状況	今後の方針
			取組指標	R7目標	R7結果	取組名称(事業名)	概要			
1	配水管漏水事故の縮減のため、漏水が懸念される配水支管の更新工事を確実にを行います。	政策15-2-① 政策15-2-② 行財2-2-① 行財2-2-②	配水支管更新延長	200m	234.8m	配水支管改良	漏水懸念路線や維持管理困難な配水支管及び鉛給水管について計画的に更新を進め、給配水管における漏水事故を未然に防止することにより、水道の安定供給を確保します。	○	適切な工事進捗管理の実施により、目標の更新延長を達成することができました。	今後も漏水懸念路線や維持管理困難な配水管の更新を計画的に推進し、漏水事故の未然防止に努めます。
2	給水管漏水事故の縮減のため、鉛給水管の更新を確実にを行います。	政策15-2-①	鉛給水管更新件数	30件	30件	鉛給水管更新		○	関係者との事前調整を確実に行ったことにより、目標の鉛管更新件数を達成することができました。	今後も効率的に鉛給水管更新を推進し、給水管漏水の未然防止に努めます。
3	職員の職務遂行能力の向上させ、効率的な業務執行と、安全、確実な施工につなげます。	行財1-4-①	研修の理解度	90%	100%	監督員研修	大規模災害や配水管漏水事故の発生に対し、迅速かつ的確に対応できるよう、訓練を実施し、不測の事態に備えます。また、地域特性に柔軟かつ弾力性を求めた内容にすることで、組織的な対応能力の向上を図ります。 ・課内研修後のアンケート調査等により理解度を判定(平均値)	○	実務に直結した研修の理解度は目標を達成し、研修の効果を確認することができました。	今後も大規模災害や配水管漏水事故に迅速に対応できるよう、有効な研修や訓練を実施し、職員の職務遂行能力の向上を図ります。
				100%	100%	給水車運転操作研修				
				100%	100%	水理解析研修				
			実施回数	1回	1回	配水管漏水事故対応訓練			広範囲の濁水を想定した配水管事故対応訓練を実施しました。	